

令和6年度 第1回 静岡県立浜北西高等学校 学校運営協議会 議事録

1 日時 令和6年6月19日(水) 午後1時30分から午後3時30分まで

2 場所 静岡県立浜北西高等学校 応接室

3 出席者(委員、敬称略)

梅林欽哉(元小学校・中学校管理職)、中津川智美(常葉大学経営学部教授)、
金島徹(浜名区調整官)、森下晃行(農業起業家/TATSUJIN株式会社)、
松本幸範(浜北国際交流協会副会長)

学校関係者

邑田聡一(校長)、小室桜子(副校長)、伊藤正徳(教頭)、中村明江(事務長)、

4 議事

(1) 開会

(2) 校長挨拶

(3) 学校運営協議会委員・学校関係者自己紹介

(4) 授業参観

(5) 令和5年度学校経営報告及び令和6年度学校経営計画(副校長)

(6) 令和6年度の取組み(DXハイスクール、行きたい学校づくり、グローバルハイ
スクール)(校長)

(7) 部活動報告及び新聞記事について(教頭)

(8) 協議

①浜北西高のよい点について

- ・2月の探究発表会の時、人を探して困っていたら、生徒から声をかけ助けてくれた。浜北西高生はいいお節介ができ、それが日々の授業に表れている。これを言ったら笑われるという不安がないので、抵抗なくグループ学習ができ、学習する雰囲気恵まれている。
- ・浜北西の生徒は、行動力とチャレンジ精神がある。6月9日の花博2024で行われた芸術祭のイベントは、浜北西高の卒業生4名が中心となって企画・運営した。出演交渉・協賛金集め・雨天時対応など、初めてにも関わらずやり遂げた。これは、高校からの積み上げによるものだと感じている。
- ・6月7日のタイ高校生の送別会に出席した浜名区長から、浜北西高生の聞く姿勢と温かい雰囲気がすばらしかったと聞いた。また、校長先生が自らタイ高校生の剣道体験を指導されている姿を見て、温かい雰囲気が伝わってきた。
- ・見学した社会科の授業では、グループで意見交換をしていた。あの授業方式をもっと広められるといい。
- ・LL教室の英語の授業では、生徒がALTの英語をきちんと理解していた。英語は多少文法が違って世界中で通じるので、LL教室の素晴らしい環境を利用し、恥ずかしがらずにしゃべり、より高度な会話ができるようになるといい。

②今後の課題について

- ・学校のいい点ばかりが話題に上り、悪いところがない、でも何かが足りないというのは、逆に難しい状況に陥っていると感じた。悪いところがあれば直せばいいが、悪いところがない中でこれから何を目指していくのか、非常に重要である。
- ・学習時間が不足しているという話だが、これから学校が何を伸ばしていくのかということもあるので、総合的に評価する必要がある。
- ・生徒のやる気や心に火が付いたり、ワクワクする思いがあつたりしないと、こちらがサポートしてもうまく機能しないことがある。そこをどうするかは大切で、難しい部分なので、これから一緒に考えていきたい。

③DXハイスクール（デジタル人材の育成）について

- ・DXハイスクール事業で文科省から1,000万円の予算がつくということだが、道具やアプリ、スキルばかりを購入するのではなく、「DXの土台の考え方」を作って、全員で共有することが大事である。「何のためDXをやるのか」「デジタルとは何か」「デジタルを入れる理由」など、学校としての定義（＝土台、考え方、ストーリー）があると、生徒達への浸透も早い。土台がしっかりしていれば、その上に積み上げてもうまくいく。逆に、土台の考え方が間違っているのに、道具やアプリ、スキルばかり入れても意味がない。難しいことを詰め込むのではなく、きれいにシステムデザインされた育成の仕方を考えてほしい。
- ・単年度予算だと、その年に色々高性能なものを購入しても、翌年には時代が変わり過ぎてもういらぬということもある。
- ・クリティカルシンキング※で考えることも大事。（※物事や情報を無批判に受け入れるのではなく、多様な角度から検討し、論理的・客観的に理解すること。批判的思考法。）
- ・DXはどうしても技術や道具に走りがちである。また、デジタルファーストという言葉があるが、自分は違和感がある。色々選択肢があるなかで、デジタルが一番いいから選ぶという流れならばよいが、デジタルが与えられたから、それをどう生かそうかという逆の流れにならないように注意が必要。

④学校運営協議会について

- ・学校運営協議会に来るのが楽しみである。提案型の会議で、活発な意見が交わされるので、面白い。ただ、提案しっぱなしではいけないので、我々委員が学校と地域とのコーディネーターになり、手助けしたいと思っている。
- ・勉強が得意でない生徒達は家庭学習においてもフォローが必要かと思うが、限られた教員数では現状難しい。学校運営協議会委員や地域の方で、放課後に時間に余裕のある方もいるので、補習等の手伝いは可能であるので言ってもらいたい。
- ・外国に滞在していた経験があるので、放課後生徒に指導するとなれば、喜んで手伝いたい。

(10)閉会